

ゲ

ストを招いて食事をするの、重要な外交活動である。今日も大島

賢三大使主催で、国連事務局のダニロ・テュルク事務次長補の送別ランチがあった。テュルクはもともとユーゴの国際法の教授で、1992年、スロヴェニアの独立とともにその常駐代表（首席大使）となり、2000年に現職についてだが、今度、帰国して大学に戻る。ランチは、まずカクテルから始まり、しばらく歓談したあと、食卓に移る。ゲストの席は、常駐代表、次席代表の順で、格が同じなら着任順である。

テュルクに次ぐゲストの2番目、ガボンのレワカ大使は、常駐代表17年という当地の最長老である。3番目のチエコのクモニチュック大使は元音楽家。最近政治変革を経た国には、おもしろい経歴の大使が少なくない。4番目がテュルクと同じスロヴェニアのキルン大

使で、現在、総会議長を補佐して、9月の首脳会談で合意すべき文書の作成にあたっている。

5番目がリヒテンシュタインのヴェナヴェツサー大使で、やはり議長を補佐する切れ者で、とにかくかっこいい。6番目のブラジルのサーデンバーグ大使は、安保理改革の同志で、ブラジルの現役外交官の最長老、落ち着いた立派な紳士である。7番目がロシアのデニソフ大使、中国通で、少し日本語も話す。いつも「コンニチワ」と挨拶してくれる。8番目が、アメリカの臨時代理常駐のパタソン大使。超大国の大使だから、みな一目置いているが、とても気さくでかわいらしい女性だ。

9番目、法務局の事務次長のミシェルは、テュルクと似た経歴で、スイスの国際法の教授から外交官となり、現職についている。そして10番目が中国の張次席大使、11番目がテュルクの助手のデイヴィ

ス女史だった。

着席すると、ホストのスピーチがある。大島大使が、ゲストの長年にわたる活動と人柄をたえ、今後の活躍を祈り、また全員の健康と国連改革の成功を祈って乾杯。それから食事が始まり、デザートになったところでゲストが答礼のスピーチをする。ユーモアを交えつつ、やはり国連改革の成功を祈って乾杯。コーヒーマたは紅茶でお

社交の効用

こうした会食は、政治的な目的を持つて行なうこともあれば、たんに社交ということもある。しかし、社交の積み重ねが、相互理解となり、信頼関係となり、情報交換となることは少なくない。今回の顔ぶれも、なかなか工夫された顔ぶれであり、有意義な情報交換もできた。その中身は、またいずれ紹介することとしよう。☺

きたおかしんいち
北岡伸一

国連日本政府代表部特命全権大使

をちこち散歩

@New York